

令和5年度 第4回古賀市文化芸術審議会議事録

日 時：令和6年1月18日(木) 14時00分～15時00分

場 所：古賀市役所第一庁舎4階第一委員会室

出 席：審議会委員 都甲康至会長、吉田公子副会長、森部忠彦委員、松田信一郎委員、
伊藤綾委員、谷口治委員、大音明洋委員

事務局 横田浩一教育部長、柴田博樹文化課長、杉村幸一歴史資料館長、
文化振興係(松本)

欠 席：山本節子委員、坂崎隆一委員、小南未来委員、文化振興係(平係長)

傍聴者：なし

配布資料

- ① レジюме (事前配布)
- ② 資料1 第2期古賀市文化芸術振興計画(案)に関するパブリック・コメントの実施結果及び第2期古賀市文化芸術振興計画(案) (事前配布)
- ③ 資料2 令和4年度文化芸術関連事業報告書 (事前配布)
- ④ 資料3 古賀市文化団体アンケート (事前配布)

1 開会のことば

2 会長あいさつ

3 報告事項

(1) 第2期古賀市文化芸術振興計画(案)に係るパブリックコメントの実施結果について

4 協議事項

(1) 第2期古賀市文化芸術振興計画の進捗管理について

都甲会長：それでは事務局から進行を引き継ぎ、私の方で務めさせていただきます。よろしくお願ひします。これから協議事項の第2期古賀市文化芸術振興計画の進捗管理について、協議していきませんが、関連する資料というのが、資料2と資料3ということだと思います。では、この資料2と資料3について、事務局から簡単に説明していただけますでしょうか。

事務局(松本)：はい、私のほうから資料2と資料3の説明をさせていただきます。

まず資料2は、第1期計画において、行政の文化事業を報告するときに使用しているものになります。こちらは、第1期計画が今年度までのため、来年度の審議会への報告まで使うものになります。資料3は、第2期計画作成の前に、文化団体へ現状の確認アンケートを行った際に使用したものとなります。

第2期計画が令和6年4月から始まりますので、今後、文化芸術審議会において進捗管理を行うにあたり、市民・団体・行政ほどのくらのスパンで、資料2や資料3といったもので確認を行っていくのか、またそのときにお尋ねしていく項目はどういったものかいいのかなというところを、皆様のご意見をお聞きしたいと思っており、今回協議事項として提案させていただきましたので、よろしくお願ひいたします。

都甲会長：はい、ありがとうございます。それでは協議に入る前に私から一つ質問ですが、資料2というのは、行政のほうの事業に対してのアンケートだったと思いますが、こちらは毎年実施されていましたよね。

事務局(松本)：はい、毎年行っております。

都甲会長：はい、ありがとうございます。毎年実施されていたということですね。それから資料3については、これは毎年の実施ではなかったような気がしています。たしか私が会長ではなく、委員の時に、後期のアクションプラン策定ぐらいの時に、何か議論していたのを記憶しています。ということは、おそらく、その10年来の中で、第1期のときには、前期と後期を2回実施されたのではないのでしょうかと思いますが、そのあたりの記憶が定かではないので、もしご存じであれば教えていただければと思います。

事務局(松本)：はい。都甲会長がおっしゃってくださったように、文化団体に対しては、第1期計画の見直しのタイミング、10年計画の前期・後期の切り替えのタイミングで文化団体へアンケートを実施しています。第1期計画では、前期アクションプランが終わって後期アクションプランに向けての1回目と、後期アクションプランが終わる・第1期計画のまとめ、第2期計画に向けて2回目ということで実施しております。

今回、資料としているものは、直近で実施した第2期計画に向けての2回目のときのアンケートをお持ちしております。

都甲会長：はい、ありがとうございます。そうしましたら、まず資料2のほうから、協議を進めていきたいと思いますが、今日はこれを決めていくというよりは、皆さんが見て、感じたこととかについて、ご意見いただければいいかなと思っていますので、よろしく願いいたします。

まずは、行政に係る資料について、皆様からご意見なり、気がついたこと等が、ありますでしょうか。

吉田副会長：はい、吉田です。資料2について、毎年度作成されてきたということで、これまでのことをもう少し伺いたいのですが、こちらは何か事業が行われた都度に、古賀市がその団体に聞きながら、古賀市がこれを作成するものなのか、それともその年度末とかに、団体に対してまとめてとか、年度末の2月とかの時期に、個々で団体に確認しながら、行政がこれは書くものなのか、それともその団体がこれを作成して、行政へ提出するようなものなのか、その実施方法について教えていただけたらと思います。

都甲会長：はい、事務局のほうよろしく願いいたします。

事務局(松本)：はい。こちらは行政で作成をしております。作成をするタイミングとしては、年度が終わった4月、5月に、文化芸術に関する事業を行ったという行政の中の各課に対して、年度の振り返りというところで記入していただいている内容になります。

事務局(柴田課長)：すみません、補足させていただきます。

ちょっと分かりにくかったのかもしれないんですが、資料の2というのが、行政内部での調査資料になります。資料の3というのが対外向けといいますか、そういった資料になります。

そして今回、お願いしたかったのが、この中身についてもですが、こういった調査を実施する時期でありますとか、例えば何年に1回、あるいは毎年や半年に1回しなくてはいけないのではないかというようなこととか、規模などについてご意見いただければと考えています。

資料2は行政内部の調査になりますが、資料3の市民文化団体アンケートにつきましては、例えば今回は10団体届かないぐらいしかお聞きしていませんので、もっとたくさんの団体へ実施したほうがいいのかそういったことについてご意見をいただければと思います。

ちなみにですが、文化関連事業報告書ということで、一般の部は作成できていませんが、行

政については、この個表を集めた報告書をつくらせていただいております。そういう内容になっております。以上です。

都甲会長：はい、ありがとうございます。吉田副会長、よろしいでしょうか。

吉田副会長：はい。

都甲会長：行政のこの資料は、振興計画に関係するような事業というのを行政の中で決めて、それに関係する、文化課だけではなく、他の課も含めた中での、文化芸術に関連する事業について、こういう報告書でまとめるということでしたよね。

事務局(柴田課長)：はい、そのとおりです。

都甲会長：はい、ありがとうございます。皆さん、いかがでしょうか。はい、谷口委員。

谷口委員：はい、行政で実施しているところで、かなりというか、少ない数だと思うんですけど、委託事業というので、団体とかにこの事業の委託をされていると思うんですけど、この分の委託に関して主体のところはどういうことかというアンケートとか、細かい作業のときに感想とか別にあると思うんですよね。行政が書かれたけれど、行政から委託されて、付属で何か、そういう事業を実施したところの感想とか困ったこととか、意見を吸い上げるような欄があったらいいかなと感じました。

都甲会長：はい。はい、事務局。

事務局(柴田課長)：はい。おっしゃるとおりだと思います。現状では、委託するという事は主体が古賀市になりますので、委託先に聞き取りをしたうえで、そのコンセンサスを得て報告するという形になりますので、ほぼ同義ということで捉えておりますが、生の声を聞くという意味では、そういった含みが必要かなと思います。

例えば、芸術文化の祭典事業だと、文化協会さんのほうにお願いをしております。主催はもちろん古賀市なんですけれども、実際は、文化協会さんが受託者として実施しております、いろんなご苦労とかもありますので、そういったものも今後は聞いていくというような形で検討させていただければと思います。以上です。

都甲会長：はい、ありがとうございます。谷口委員、よろしいでしょうか。はい、松田委員。

松田委員：松田です。資料2、資料3ともに、資料3は4月現在になっていますが、何年何月現在ということで、何年も入れていただいたほうが、記入する側にとってはいいかと思いません。集めているということは、集計しているので分かるでしょうけれど、記入する側からすれば「何年の何月現在」と入れていただいたほうがいいかと思いません。以上です。

都甲会長：はい、ありがとうございます。

この記入する時に、いつのものか分からないということ、何年度から何年の間とか、期間を明確にしたほうがいいということですね。いつの時点とかは確かにないですね。

はい、事務局。

事務局(柴田課長)：はい。そうですね、行政の分につきましては毎年度やっておりますので時期的なものはあれなんですけれども、文化団体アンケートにつきましては各年度というか、必要に応じて実施しているので、確かにいつ時点などの明記など、そのようにさせていただきたいと思えます。

今回の4月現在ということで問1には書いておりますが、恐らくリード文がないので、ここだけが4月現在で、あとは任意でというように認識されるだろうということで受け止めておりますので、そのあたりは分かりやすく明確にしたいと思えますので、参考にさせていただきたい

と思います。

都甲会長：ありがとうございます。はい、他はいかがでしょうか。はい、大音委員。

大音委員：大音です。すみません、ちょっと私は過去の経緯が分からないので教えてほしいのですけれど、この資料2というのは、先ほど課長が言われたように団体か何かそういうところへ、そういう事業について、まず投げるんですか。

都甲会長：質問ということで、事務局よろしいですか。

事務局(柴田課長)：はい。資料2ということでよろしいですか。

資料2は、行政内部で実施している文化関連の事業を調査しています。それに対して、毎年実施していることがありますので、去年の回答分を渡して、更新してもらう分と、新たに実施したものについては新規に調査票を書いてもらいまして、終わったものについてはこれは終了ですという報告をいただいているという内容です。

団体さんのほうに直接聞くのは、それを委託された課となりますので、基本的には行政が実施しているというものになります。行政の各部署に聞いているという話です。

大音委員：すみません、順番でいくと、まずもう既にどこかに聞くということが分かっているわけですね。そこに聞いて、この紙を書いてもらうと。上がってきた結果を、こちらでまとめていると。

事務局(柴田課長)：はい。市の事業としてどういった文化事業がされたかの一覧をつくっているという状況です。そのため分析めいたところはありませんので、それを我々がひも解いてということでもその報告とかは特に今のところ行っていません。

大音委員：ちょっと聞きたかったのは、今それは分かるんですけれど、例えば、全くの新しい何か、そういうことをやりたい人がいたとするじゃないですか。こういう文化事業について、そういう方はどこかで吸い上げられるんですか。

ちょっと言いが悪いと思いますけれど。

事務局(柴田課長)：資料2につきましては、あくまでも行政内部の話ということで押さえていただいたらいいかなと思います。行政としては予算を取って実施している事業を調査しているというふうに思っただけならば。

行政に絡んで実施していただいている分については、ここには反映されませんので、そういったものは教えていただいたとなりまして、この報告書上では上がってこないものになります。

あくまでも行政として実施しているもので、行政としてやってないものがいかにあるかというのを本来は調査はしたいところなんですけれども、正直文化協会さんであれば、単独で実施していらっしゃる場所もありますし、文化をどう捉えるかというところもあるので、一元管理すると非常に難しいのかなというふうに思っております。

この資料3のアンケートの中で、文化団体さんにお聞きするというところですが、ただし、ご提案していただいた、そのような調査が必要だっていうことは分かったということで、一つ良い知恵をいただいたなというふうに思っております。ありがとうございます。

都甲会長：はい。主催は古賀市、予算がついているという事業ですよね。それを委託するかどうかというのは、また次の話ですよね。

行政内部で自主的実施している場合もあるし、そういう委託事業になる場合もあるというそういうことですね。あくまでも主催が古賀市という事業についてということで、資料2はその

ための資料ですよ。

事務局(柴田課長)：はい、そういうことだと思います。

都甲会長：はい、ありがとうございます。はい、森部委員。

森部委員：今のお話ですと、委託事業が主になると思いますが、委託せずに行行政で実施している事業というものはあるんですか。

事務局(柴田課長)：はい。例えばですが、手前味噌の話になりますが、今お手元に配布しているチラシのコレクション展もそうですし、そういったものがあります。文化課が直営で実施しているものもありますし、あと、生涯学習推進課が実施しているリーパスカレッジなど、そういった直営のものも、かなりあります。

そこで、目的が文化なのか、ツールとして文化を使っているのかっていうのを問わず、他課へ報告をお願いしておりますので、あとは原課の判断となり、目的が文化ではないため挙げていない場合もあります。

都甲会長：よろしいですか。

森部委員：はい。

都甲会長：はい、ありがとうございます。それでは資料2、資料3の両方を含めてでも構いませんので、皆様のご意見ありますでしょうか。

伊藤委員：ちょっと確認なのですが、この資料2の「コロナの影響」と書いてあるこの枠についてのは、これコロナの前とかはこの枠がなかったっていうことですか。

事務局(松本)：そうです。「コロナの影響」のところはコロナの分が出てから追加しました。5年度は、コロナが第5類のほうに移行しましたので、事務局内部のほうで考えますけれども、枠としては外すのかなあというふうには今ちょっと考えております。

伊藤委員：事業を実施しようと思ったけれども、コロナじゃなくても、例えばインフルじゃないですけど何かしら雨天とかで中止みたいなふうになったときは、何かそれはそれで違う形で表現するみたいな、ことですかね。

事務局(柴田課長)：はい、そうですね。特段の事情があった場合は、成果と課題の中で触れていただいてもいいのかなというふうに思っております。

都甲会長：はい、よろしいでしょうか。

伊藤委員：はい。

都甲会長：参考までに、この2つの資料2、資料3は、いわゆる第1期計画のものなのですね。

これから第2期計画がスタートしようとしているので、その全体像を見るときの場合、計画の12ページに全体像の図、概念図のところですが、このビジョンというところで、市民のこういうふうになったらいいよねという、こうあるべき状態、姿というか、6項目挙げて、それに対して、行政や団体がどのように活動していったらいいだろうかっていうことを議論してきたと思います。

これは私の私見になるかと思いますが、せっかくつくった第2期計画のビジョン項目が、実際に反映できているだろうかという、そういう観点で報告書の項目を洗い直したほうがいいのではないかなと思っています。このまま従前の、第1期計画にて使っていたものを、資料3の団体さん向けについても、このまま踏襲するのではなく、1度見直したほうがいいのではないかなあというふうに思っているところですね。これは私の意見ということで、ご参考いただければと思います。

谷口委員：すみません。これを見た背景、例えば令和4年度の確認ということで、令和4年度の審議会でこの部分をどういうことにするかということで、「コロナの影響」とのことは、この時期はあったということで、その半期前のときよりも、ここの審議会でコロナを入れる形とか、こちらの「外部発信」のところはホームページとかツイッターとかいろんなSNSの媒体があるから入れたほうがいいよということで、こういう風が変わって4年度調査したんですよね。今回パブコメでも意見が出てないんで、このまま通るとしたら、今、会長が言われたとおりに、この計画案が正式になるんですけれど、ここの6つのキーワードをもとに、新たに団体とかも、作り直したほうがいいと思うんですね。

それと前は計画の見直しの時期に、団体もアンケートをとっているってということで、今回新たにこちらのほうでは進捗管理と評価という形が出ていますので、こちらのほうには適時見直すとかアンケートとかとったとしても、もうちょっと頻繁にとっていくとか、何か突発的な、この前はたまたまコロナの時期と、団体のアンケートをとる時期に重なったのでコロナについての項目も入れたんですけれど、5年間の間の2年目ぐらいのときにそういう突発的な事項とか、大震災とか、もし発生した場合とかでも、適時とるような形で何かやってほしいなと思います。

都甲会長：はい、ありがとうございます。事務局、何かありますか。

事務局(柴田課長)：今のご意見に対しては、まさにそういったご意見を出していただければということで、会長がおっしゃっていましたが、このまま踏襲していくかっていうより、やはり何かしら手を入れたいいけない、あるいは全く刷新するべきなのかなと思う見直しだったので、そういったものたたき台をつくりたいかなということで、今回、丸投げで申し訳ないのですが「こういったふうにしたほうがいいよ」というようなご意見をいただければと思っておりますので、今のご意見については大変参考になりました。今後の参考にさせていただきますと思います。以上です。

都甲会長：はい。もう一点、すごい気になっていることがあります。市民の皆さまにとっては、条例とか、それからこれからの第2期振興計画がスタートするわけなのですが、その2期の振興計画がスタートすること自体も、なかなか知らないのではないかと思うのですよね。周知をするというのは、冒頭に事務局からもありましたが、それが本当にどのくらい浸透したのかとか、なにかそれが分かるものがない、分かる聞き方がないかなあというのは非常に危惧していますね。

もう一つは、それに関係しますが、新しい人が、事業なりイベントなりに、それから団体に参加するっていうのが、やっぱり非常に広める意味では大事だと思うのですよね。だから新しい参加者の人数だとか、内訳というか、何か拾えるといいなあと思いました。それは、現在の資料2とか3からはちょっと難しいかなあと思っていますので、個人的な意見として述べさせていただきますので述べさせていただきます。

はい。皆さんいかがでしょうか。はい、伊藤委員。

伊藤委員：私は古賀市の市民活動支援センターのつながり広場ってところに勤めています。

何年前から古賀市に今あるいろいろな計画、文化芸術振興計画だったり、子育てとか生涯学習に関する計画とかを団体の皆さんに知っていただいて、その計画の中で皆さんはこういうところとか、古賀市のどこの事業と共同でできるんじゃないかとか、自分たちは単独でやっているけれどもこの計画の中ではこういうようなところで、何か関わりがあるんだよみた

いなどころが、できるような機会というのを、十数人とか多くてそれぐらいですけれど、少人数の規模で何年か事業をしています。今はある程度、他の課とかも計画が終わったので、それぞれの単一の事業について、この前とか地域猫の事業とかそういうお話を行政の方にさせていただいたんですけれど、今回新しく第2期の計画ができるということなので、これは私の意見ですが、つながり広場でもそういう団体の皆さんとか、一般の市民の方にも知っていただける機会が持てたらいいかなと思いました。

都甲会長：はい、ありがとうございます。そうですね、団体間の交流も少ないのではないかとこの議論が、この第2期計画をつくるときにもあったかと思うので、その団体間の交流ができたのかどうかとか、そこに市民の方との会話が合ったとか、対話ができたのかとか、何かそういうことも聞けるといいのかなあと思いました。

他の皆さまは、いかがでしょうか。はい、吉田副会長。

吉田副会長：今のお話を聞く中で、例えば資料2の報告書、これは行政が作成する行政側の内部資料ということもあったので、今後、新しいこのプランでいうと、12ページにある行政の活動目標がどんなふうに達成されたかっていうのを測るような項目があったらいいんじゃないかというところまでは皆さんと何となく共有というかできているかなと思います。

それは、例えば成果とか課題のところ、市民が文化芸術に触れられる機会、場所が提供できたかどうかとか、そういう内容が入ってくるといいんじゃないかなというふうに思いました。

都甲会長：はい、ありがとうございます。皆様のご意見をお伺いすると、これからスタートをする第2期の振興計画を測るというか、それをもとに、どういうふうにこの振興計画が進捗する、進んでいくかという、そういうのを評価できるような、アンケートの項目に変えていったほうがいいというようなご意見のように思いますが、いかがでしょうか。

多分、項目もそういう項目立てにしたほうがいいのかもしれないですね。この時期の問題は一度置いておいて、少しそういう意味で、項目立てを一度見直すというふうなことが今日の、結論というか方向性なのかなあとというふうに思いますね。いかがでしょう。その方向でよろしいでしょうか。はい、森部委員。

森部委員：はい。今おっしゃられるように、各行政の活動目標とか、あるいは団体の活動目標、これが1から6までありますが、それに対してどうだったかというような、やはりこのアンケートの質問内容も、何か結びついていかないと、結局目標自体がどうだったか、どうなったのかということアンケートで分かるようになってくるんじゃないだろうかなと思いますので、これはぜひ、結びつくような質問項目として挙げていただけたらいいと思います。

都甲会長：はい、ありがとうございます。はい、大音委員。

大音委員：はい。今言われた意見、私も賛成だと思います。そうすると計画を見たときに、この12ページの行政の活動目標ですが、これの1から6番までについて評価するための基準みたいなものを、市のほうでも、持っておいたほうがいいんじゃないかと思えますね。

そうしないと、たぶんそれぞれの課が事業を評価したときに、その基準が違っていたら困るところもあるので、例えばこの1番から6番では「いつの時点で」「誰が」「どのような形で」「どのように評価したのか」とか、そういったのもある程度分かるような基準が。ここには書かなくても、市の中でそれぞれの一本化した形で、評価できる基準を設けていたほうがいいのかなと。これを読んだときにちょっとそう感じてしまうので。

都甲会長：はい、ありがとうございます。ご意見ということで、はい、ありがとうございます。

行政のほうの資料2については、毎年行われるということなので、そういう意味では、早々に、項目含めて議論したほうがいいのではないかなと思います。

資料3のほうについても、新たな項目で見直したとして、アンケートが本当に有効かどうかということも早く判断したほうがいいと思うので、来年度アンケートを実施できるかどうかは難しいかもしれませんが、来年度に、資料3の団体のアンケートについては見直すとして、その翌年ぐらいには、一度実施することも必要なのかもしれないね。この項目については、来年度引き続き検討したほうがいいかなと思います。そういう意味では、資料2も併せて検討したほうがいいかもしれません。年度末におそらく実施されるでしょうから。はい、松田委員。

松田委員：はい。松田です。この資料3の団体アンケートのほかに、各活動団体さんが活動の度にアンケートをとっておられますよね。例えば、文化協会さんがいろんなイベントを実施したときに取っていたり、そういうそういうものがありますよね。この審議会といいますか、文化課で把握できるような、システム化か何か考えておられますか。

せっかく団体で活動をしている中には、同じ行事であれば、初めて参加したのか、何回ぐらい参加しているのかとか、そういうものの掘り起こしなんかでもできたら、新規の方の参加状況も分かりますので、それが何か見られる方法はできないでしょうか。

都甲会長：はい、森部委員。

森部委員：文化協会の森部です。今ご指摘ご質問の、いろんなアンケート等は、文化協会と文化課とは月1回ぐらい打合せをしており、その場で実際に文化課へもデータとして、例えば前月の事業に対してアンケートはこんな内容がありましたとかいう内容についても報告させていただいております。まず、そういった意味では、各団体から行政へは、報告はさせていただいております。

都甲会長：いいですかね。

松田委員：そうですね。活動団体によっては、市からの補助金だとか、助成金をいただいているところもあります。当然そういうことまで、見えるようにしてもらいたいなと思っています。以上です。

都甲会長：はい、ありがとうございます。

せっかくいろんな団体さんがアンケートをとられるということなので、何らかの共通な事項というか、せっかくこの第2期計画に基づいた、共通な項目だとかを含めた上でアンケートを実施したほうがいいかと思っておりますので、そのあたりも、このアンケートも、それぞれ見直したほうがいいかもしれませんね。

森部委員：はい。そうですね、実を言うと、アンケートもあんまり各項目をあげると書いていただけないという現実ありますので、できるだけそういうことも考慮しながら、アンケートの質問内容も簡素化しております。そのあたりも考慮して今後もアンケートの内容は考えていきたいなと思います。ありがとうございます。

谷口委員：市から後援とかいただいているときに、事業が終わったら報告書を提出します。

市民オーケストラとかいろいろしておりますが、そのときに、うちの団体としても、何回リピーターが多いとか、新規でいらっしゃったとか、次はどんな曲がいいとか一応アンケートをとっています。

ただ市としてそういう情報を吸い上げたいという、一括して市民の声を聞きたいということ

だったら、後援の手続きの時に、できればアンケートでこの質問項目は必ずとってくださいとか、各団体おのこの、アンケートのとり方違うと思うんで、市として吸い上げるところはこういう後援の時に必須項目として、参加人数とか、その中でリピーターがいるとか、今さっきおっしゃられた新規で参加された方とか、そういうアンケートをとってくださいみたいな形であれば、各団体のその項目を比較できると思いますので、もし後援の手続きがあるときは、そういう対応をとられたらいいかなと思います。

都甲会長：はい、ありがとうございます。

それとアンケートも項目が多くなり過ぎると、なかなか回答していただけないということもありますので、第2期計画がいっぱい盛り込んでいるので、今年度はこれを重視しようとか、次の年はこれをやろうとか、メリハリというか、強弱つけたほうがよさそうですね。今年聞く項目はこれだとか、そういうふうな工夫も、必要なあというふうに感じました。

はい、吉田副会長。

吉田副会長：この古賀市の文化団体による事業に、古賀市の行政の方が、どんな活動されているのかなとかいうふうに立ち会うというか、居合わせたりとか、そういうこともあるんですか。

事務局(柴田課長)：はい。ご案内いただいた分については、できる限り、ワークライフバランスを考慮しながら参加させていただいております。

吉田副会長：分かりました。例えば、この古賀市文化団体アンケートとかは、自己評価というか、実施した事について主催者が、自分たちはよかったと思う。参加者のリピーターだったりとか、そういう項目はあるにしても、まず自己評価になるので、今後、計画の活動目標がどんなふうに達成できたかっていうところを見るにおいては、外部評価というか、また別のところから、この活動がどうだったかっていうところを見ていけると、自分たちが実施したことが、どうだったかっていうことも、また振り返って、改善されていくということになるのかなというふうに思いました。

都甲会長：はい、ありがとうございました。はい、事務局。

事務局(柴田課長)：はい、まとめみたいなるかと思い、申し訳ないのですけれど、一応計画案ができて、その中で目標を掲げて、進捗管理していきますというようなことを表記していたのですが、果たして進捗管理という中身はどうなのかというのを、はっきり明記してあるものではないので、アンケートを通して進捗管理していったほうがいいのかというふうな思いがありました。今までの方法、項目が果たしていいのかどうか、というところを論議していただきたいというふうに思ったことから、今回議題として提案させていただいて、いろいろご意見いただきましたので、それを参考にして、また、たたき台をつくらせていただこうかと思っております。

そして、先ほど、松本のほうから申しあげましたが、今年度分の調査につきましては、計画は前回の分でありますので、このままの項目で実施しますけれども、来年度の実施事業分は新しい計画になり、調査につきましては今いただいたご意見あたりを考慮できるように、また議論していただきたいというふうに思いますので、まとめてしまいました但よろしくお願ひしたいと思います。

都甲会長：はい。ありがとうございます。事務局よりまとめがありました但、よろしいですかね。

そうしましたらこのアンケートについて、特になければここまでにして、せっかくですの

で、今までのことも含めて何らかの、事務局に議事を返す前に、要望等、ご意見等ありましたらいただければと思います。

大音委員：はい、すみません、1点よろしいでしょうか。

今の議論についてのまとめはいいです。この資料1のパブコメについて、意見も、提出者も、提出件数もゼロになっているじゃないですか。これ、僕も分かるんですよ。私もパブコメを出した立場だったので、このパブコメを見る人は、必ずそこに興味がないと見ないんですよ。分からないので。

私も見てみたら、今、LINEでよく、他の関係で古賀市からいろんな形で「何とかを開催します」「こういう開催します」って通知がくるじゃないですか。これをされたのかわかんないですけど、このパブコメをしましたというのは、結局LINEやスマホではなく、PCでみないとわかんないですよ。たぶん「パブリックコメントをしました」というのを、古賀市のパブコメというページで開くと、こういうのがパブコメしましたという、やっとそこで分かるんですよ。僕の話が間違っていたら教えてください。

そういうふうにしてみないから、じゃあパブコメ、ここに出ているねとなると思いますけれど、この内容はどんなものかというのは、またそこで概要というのを見ないと見られないじゃないですか。そうするとこの12ページを見るのはたぶんやめたというのがほとんどだと思うんですよ。

市全般になるから怒られるかもしれないけれど、あえて言いたいのは、いや私もそういうこととしてなかったからそう言いたいんですけど、例えば概要の概要みたいなのは、これはこういうことで、こんなものなんですと、だから意見がありますか・ないですかというようなことをLINEでは難しいかもしれないけど、これぐらいで圧縮してできないかなっていう、意見です。すみません勝手なこと言って。

都甲会長：はい、事務局。

事務局(柴田課長)：はい、まず事実から申し述べますと、WEB関係はホームページでしかお知らせしておらず、LINEには掲載しておりません。一応パブコメを実施するにあたっては、統一した進め方があり、その方法で実施しましたので、今のご意見は全体として受け止めたいと思います。貴重なご意見として賜りたいと思います。

また、パブリックコメントですけど、あくまでも案そのものに対するパブリックコメントですので、案を見ていただかないと話にならないということもあり、要約してしまうとどうしても我々の恣意的な力も働いてしまうところもあるので、できればそのままお出ししたいところがあります。一応、市民の皆さまが見てくださっているというところは、目視で確認しておりますが、やはりその熟読しなるとなかなか難しいところがありますので、そのあたりは熟読できるような体制ってどうだろうということを、もう1回議論したいと思いますので、そういったところでご理解していただければと思います。以上です。

都甲会長：はい、ありがとうございます。他にありますか。

特になければ、この審議会の委員では今年度が最後ということで、2年間の任期が満了します。2年間どうもありがとうございました。

それでは、議事を事務局へお返ししたいと思います。よろしく願いいたします。

5 その他

6 閉会のことば